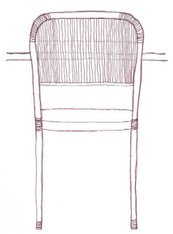
『書斎』 ※京都市のゲストハウスの一室として設計

イス座を中心に，下方にはユカ座，上方には立位の空間．１室に３つの空間が存在する状況が生まれている．

人は重心を変化させながら，様々な姿勢を取っている．中でも日本人は古来から床に直接座るユカ座の文化が根づいているため，❶立位 ❷イス座位 ❸ユカ座位 の姿勢である大きく３つの重心をとりながら日々生活している．

現代の日本では，明治維新後のイス座化により洋室が普及している．しかしイス座を想定した洋室をつくっても，日本人の床に座る習性はなくならない．ならば，西洋化から 100 年以上経過し，イス座とユカ座のどちらも使いこなす私たちにとって，両方の座位が想定された空間があったら「１部屋でその倍以上の空間を楽しむことができるのではないか」とこの案を考えた．

⇒



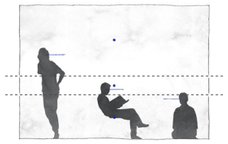
イス座化を進めた要因の一つに
現代のデスクワーク社会があることから，
椅子を空間の中心におき設計をはじめた．

三つの重心を彩り，一室三彩

命名した和の手法―

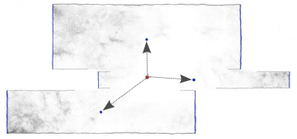
彩（さい）重心 / 重心を彩る

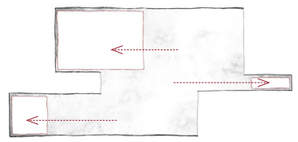
身体の重心を変化させた３つの姿勢に対応するように，
空間の重心も３つそれぞれを傾け，１つずつが彩を持つ空間に．



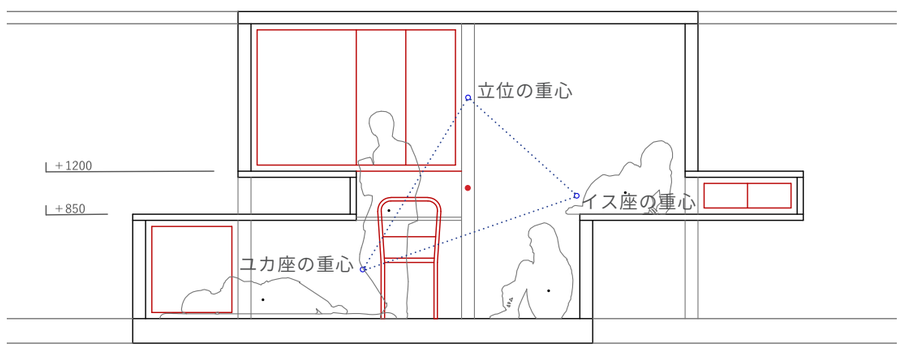
立位・ユカ座・イス座の３つの空間に分節する

壁の位置をずらし，空間の重心を傾ける





空間の最も隅に窓を設け，視線を誘導する
※重心移動を手伝う



断面図　S=1/50